

倉敷市西阿知と阿智神社祭神の考察

先史古代研究会 丸谷憲二

1 はじめに

阿智神社（倉敷市本町）の祭神は宗像三神である。祭神からは宗像神社であり、阿智神社ではない。どうして阿智神社の祭神が阿智の祝（はふり）の祖・八意思兼命御児神（あめのやごころおもいかねのみこと）でないのかについて考察したい。地名として西阿知がある。

2 倉敷 阿智神社説

『阿智神社御参拝の手引』に、「御祭神宗像三神について」、幕末の国学者鈴木重胤説を紹介している。「相殿に応神天皇を祀り」として、阿知使主との関係を説明し、『阿智神社がわかる本』では、「倉敷の古名は阿知であり、阿智神社は倉敷の総氏神ですが、その名に由来する阿知使主の伝承もあります。」としている。同時に、鶴形山山上に社らしきものが建立されたのは文禄三年（1594）と伝承され、社号は中世以降は「妙見宮」とよばれ、明治になり阿智神社と改称した。「元宮は九州福岡の宗像大社です。」と説明している。

3 『倉敷市史』説

「倉敷又蔵敷とも書す、近世倉子城と書するは雅号也、古名阿智又東阿智と言う。西阿智に対する称呼にして和名抄共に阿智郷とす。阿智とは往昔阿知使主が引率して投歸したる番神の開きたる村里の謂なり。和名抄、窪屋群阿智郷は今の萬寿菅生倉敷帯江なり。又浅口郡阿智郷は後の西阿智、中洲なり。海面を阿智瀉又穴海と言う漢海の転也。」との永山卯三郎説を紹介している。

4 岡山市東区上阿知の春日神社末社 阿知神社からの移転説

春日神社は古来阿知村桜田に鎮座を現在地（岡山市東区上阿知）に奉遷した。祭神は天児屋根命である。末社阿知神社の祭神は不明である。末社の意味は、平安時代迄に関係者が全員移転し、阿知の地名のみが残されたものである。「移転先は不明、移転先は大和であろう。」としてきたが、吉備の穴海を舟を利用すれば倉敷市阿知は近く一部が移転したものであろう。倉敷市阿智神社の祭神が祭神名不明で「宗像三神」とされている。



5 阿智神社の祭神名

5.1 長野県の阿智神社

長野県に延喜式内社の阿智神社がある。前宮（長野県下伊那郡阿智村智里 489）と奥宮（長野県下伊那郡阿智村智

里 497）がある。社伝には、人皇第 8 代孝元天皇 5 年春正月、八意思兼命御児神を従えて信濃国に天降り、阿智の祝（はふり）の祖となり給うた。奥宮に磐座がある。奥宮は前宮

より阿智川に沿って2軒、本谷川と黒川が合流して阿知川となる三角に突出した半島状の先端部にある。奥宮の地を、阿智地方開拓の祖神天表春命（あめのうわはるのみこと）の川合陵（かわあいのみささぎ）としている。

5.2 祭神 天八意思兼命

天八意思兼命（あめのやごころおもいかねのみこと）は、『先代旧事本紀』では思金神、常世思金神、思兼神、八意思兼神、八意思金神、『古事記』では思金神、常世思金神、『日本書紀』では思兼神と表記されている。思金（兼）神を呉音と漢音で、シキン・シコン・シケンと読むのが正式名と考える。外国語の表記であり、ばらつきのある聞き取りである。

5.3 渡来人 阿智氏

『先代旧事本紀』に「高皇産霊尊、兒天八意思兼命、その兒天表春命 と共に天降りまし信濃国阿智祝等の祖」とある。上古信濃国の三大古族、①諏訪神社の諏訪族と、②穂高神社の安曇族と、③阿智神社の阿智族と説明している。阿智族は信濃国南端を開拓した。

越後より信濃にかけて蟠踞する出雲系諏訪族に対抗する天孫系氏族であり、信濃の国境を押える最重要地点を守護していた。

6 秩父神社



秩父神社（埼玉県秩父市番場町）は、秩父三社の一社。式内社。祭神は八意思兼命（やごころおもいかねのみこと）の十世孫で、初代の知々夫国造・知知夫彦命（ちちぶひこのみこと）である。『先代旧事本紀』の記録である。崇神天皇の時代である。天之御中主神（あめのみなかぬしのかみ）が明治時代に合祀され、秩父宮雍仁親王が昭和28年に合祀されている。

6.1 秩父大宮妙見宮

天之御中主神は明治の神仏分離で合祀された。江戸時代迄は妙見菩薩であった。鎌倉時代の合祀とされている。江戸時代迄は「秩父大宮妙見宮」と呼ばれていた。

妙見信仰は、古代バビロニアにはじまり、インドを経て、中国で仏教と道教と習合し、仏教と共に日本に伝来した。妙見菩薩は仏教天部の一つ。妙見尊星王（みょうけんそんしようおう）である。北辰妙見菩薩と呼ばれる。古代中国思想では、北極星（北辰）は天帝（天皇大帝）と見なされ、妙見菩薩と呼ばれる。

7 まとめ

倉敷市の阿智神社祭神は、秩父神社と同じく江戸時代迄は「妙見宮」であった。しかし、秩父神社は明治時代に『先代旧事本紀』の記録により、八意思兼命の十世孫で、初代の知々夫国造・知知夫彦命（ちちぶひこのみこと）に戻された。倉敷市の阿智神社は文献もなく、伝承もないために国学者鈴木重胤説を採用している。岡山市東区上阿知の住民の一部が、平安時代迄に倉敷市へ移転したと推定される。

阿智神社祭神の天八意思兼命（あめのやごころおもいかねのみこと）は、智力を神格化した神。政策の立案を委任されておられた神であり、岩戸隠れの際に、天の安原に集まった八百万の神に天照大神を岩戸の外に出すための知恵を授け、葦原中国平定では、葦原中国に派遣する神の選定を行ない、天孫降臨では瓊々杵尊に随伴している。日本神話上の重要な神様である。この伝承が欠落している。

8 参考文献

- ① 『岡山県神社誌』
- ② 『倉敷市史第一冊』昭和48年 名著出版
- ③ 『阿智神社御参拝の手引』阿智神社社務所
- ④ 『阿智神社がわかる本』2004年 阿智神社編
- ⑤ 『阿知の地名由来と大伯』丸谷憲二 平成27年12月06日
- ⑥ 長野県 阿智神社 前宮・奥宮
http://www.genbu.net/data/sinano/ati_title.htm
- ⑦ 『日本古代神事事典』平成12年 中日出版社
- ⑧ 『国史大系 第七卷 先代旧事本紀』黒坂勝美 1966年 吉川弘文館
- ⑨ 『先代旧事本紀訓証』大野七三 2001年 批評社